

# 平成 25 年度事業報告書

平成 26 年 4 月 29 日  
公益社団法人日本左官会議

## 1 概況

日本左官会議は、平成 24 年 6 月 21 日、一般社団法人として認可され、平成 25 年 3 月 1 日には、公益社団法人として認可された。平成 25 年度は公益社団法人としての 1 年目となった。

### 【定款に定める目的】

この法人は、太古から未来へと永続する土とともに生きる思想、そして高度で確かな左官技能を広め、そのことをもってわが国の建築文化及び職人文化の発展に寄与し、人々の健康で楽しく自由な住環境・生活環境の整備に貢献し、この国の風景を、各地方風土にふさわしく、人と自然がともにつくりあげる美しい風景へと改善していくことに貢献し、また建築・土木の分野において、環境に負荷を与えず自然と共生する柔軟で合理的な発想に基づく技術を、伝統に学びつつも新しく創出していくことを目的とします。

### 【定款に定める事業】

- ① 確かな左官技能と左官文化を伝承・普及・発展させていくための事業（講座、セミナー、シンポジウム、学術集会、研究会、イベント、展示会、出版などを含む）
  - ② 若手職人や指導者を研修・育成する事業、及び研修・育成事業をおこなう他の団体を支援する事業（研修会、技術講習会、技術者の派遣などを含む）
  - ③ 国内・外の土や左官技術、また自然素材に関する情報や材料を収集し、分析し、保存し、データアーカイブを制作し、提供する事業
  - ④ 左官技術を中心にして、自然と共生する建築・土木の技術を調査・研究・開発し、提案する事業、また実際の現場に即して立案・設計し、工事の実際施工を請け負う事業（助言、指導、コンサルタント事業を含む）
  - ⑤ 建築関連法案を研究し、左官の技術と左官文化、ひいてはわが国固有の建築文化や職人文化を守り、あるいはこれを再構築・発展させるための提案や提言をおこなう事業
  - ⑥ 伝統的建築物の修復・保全に関して、相談を受け、実現方法を立案・設計する事業、また工事の実際施工を請け負う事業、そして、修復・保全のために寄付を集めるなどの付帯する業務
  - ⑦ 土をよく知るための体験的・情操教育的事業（体験会、体験教室、観察会、見学会など、またその指導を含む）
  - ⑧ 研究・開発の拠点となり、また多くの人々が左官本位の建築や左官棟梁による建設現場や研究・開発の成果を見学し、宿泊して体験してもらえるような小規模な施設もしくは施設群を建設する事業、またその施設あるいは施設群を運営する事業
  - ⑨ 土と左官に関する国際交流事業（技術者・研究者の海外への派遣、国際的情報交換、国際的催し物の主催や協力などを含む）
  - ⑩ この他この法人の目的を達するために必要な事業、及び付帯する業務のすべて
- 2 すべての事業を、日本国内全域及び事業によっては海外において、おこないます。

### 【会員の状況】

顧問会員 7名      名誉会員 2名      正会員 25名      準会員 16名  
支援会員 37名      賛助会員 6社      計 93名・団体      (平成 26年 4月 7日現在)

### 【役員などに関する事項】

議長	原田進	原田左研	
副議長	小林隆男	江州左官土舟	
副議長	挾土秀平	職人社秀平組	
総務理事	木村謙一	晴れやか美術計画	
事務局長	多田君枝	アイシオール	
理事	植田俊彦	総合建築 植田	
理事	宇野勇治	宇野総合計画事務所	
理事	小沼充	小沼工業	
理事	今野等	今野左官店	
理事	豊永郁代	アイシオール	
理事	西川和也	工房カズ	
理事	松木憲司	蒼築舎	
理事	山本忠和	山本工業所	
監事	吉村浩志		すべて非常勤

## 2 事業期間

平成 25年 3月 1日～平成 26年 2月 28日

## 3 事業の状況

左官が直接、講義を行う見学会シリーズ「日本の壁をみる」がスタートした。初年度から取りかかっている唐獅子土蔵プロジェクトも修復に向けて動き出した。また、全会員向けのメーリングリストを設定、理事が関わるイベントなどを中心に、左官に関する幅広い情報を流すようにした。

### 【シリーズ 日本の壁をみる】

日本の左官技術は世界的にみても特異といえる高度なもの。それを本当に知るには本物に触れること、見る目を養うことが必要となる。ただ、伝統建築の見学会は少なからず行われているが、ほとんどは歴史や建築的な視点からであり、左官に着目したものは少ない。このシリーズは、ベテラン左官を講師に迎え、その技術や心得について話を伺いながら、伝統の壁を見学するもの。今年度は、4月22日に大徳寺塔頭の玉林院、養庵の「投げ苜ちらし壁」、11月2日に角屋の「青貝の間の壁」で行った。前者が35人、後者が49人と定員以上の参加者を集めた。左官のみならず、さまざまな仕事に携わる方が参加し、好評を博した。

### 【唐獅子土蔵プロジェクト】

唐獅子土蔵とは、岩手県一関市花泉町に残る、屋根の上に唐獅子を載せた土蔵である。明治末期、気仙郡米崎村の左官・吉田春治の手によってつくられたもので、構成、造形、施工において日本の土蔵建築の最高峰と言っても過言ではない。しかし、この土蔵群が東日本大震災により被災してしまった。このプロジェクトは唐獅子土蔵を保存修復し、往事の技術を研究すると共に後世に伝えようというものである。被災地で建築資材が不足している状況のなか、動き出すのが困難であったが、今年度は状況を把握し、所有者の意向もヒアリングして、実現可能なことや急を要することなどを整理。夏に足場がついた。ただし、さまざまな要件が整わず、修復を始めるのは平成26年の春以降となる。日本ナショナルトラストから「東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト」として助成金(250万円)交付が決定していた事業は、平成26年6月30日まで期間の延長を願い出て承認された。やはり助成金交付が決定していた芸術文化振興基金の「伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動」については、対象となる活動が平成26年3月末までと決められており、期間延長ができないことから申請を取り下げた。

### 【左官関係のイベントなどを後援、協力】

理事をはじめとする会員が関係しているイベントを後援、協力し、会員へ広報すると共に、日本左官会議の認知度を高めることを意図する。

5月18日 素材を訪ねる旅 シリーズ第6弾「左官」伝統左官技術の多様性と可能性」

講師／松木憲司 主催／日本建築家協会東海支部愛知地域会

5月18日・19日 左官講習会 in 金沢 主催／左官を考える会(代表 植田俊彦)

## 4 理事会の開催状況

当該事業期間中、下記の通り、理事会を開催した。

11月2日 理事11名の出席により、第1回理事会を京都 hygge で開催。新監事、吉村浩志氏を紹介。賛助会員の資格について討議。

2月21日 理事9名の出席により、第2回理事会を主たる事務所で開催。平成26年度事業計画書、平成26年度収支予算書を承認。5月の総会の開催を決議。